

# 令和5年度第1回新潟県立図書館協議会

日時：令和5年9月13日（水）

午後2時から4時

場所：新潟県立図書館1階 制作演習室

## 会 議 次 第

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 議 事

#### (1) 新潟県立図書館運営基本指針等について

ア 新潟県立図書館運営基本指針（令和3年度～令和5年度）

イ 新潟県立図書館運営基本指針 行動計画

ウ 令和5年度新潟県立図書館の運営基本方針

#### (2) 令和4年度新潟県立図書館運営基本指針行動計画に係る評価について

#### (3) 令和5年度新潟県立図書館運営基本指針行動計画評価シート（中間報告） について

#### (4) 次期新潟県立図書館運営基本指針（令和6年度～令和8年度）について

### 4 その他

### 5 閉 会

---

#### 【配布資料】

資料1－1 新潟県立図書館の概要

資料1－2 新潟県立図書館協議会の概要

資料1－3 新潟県立図書館協議会への諮問事項

資料1－4 新潟県立図書館協議会関係法令等

資料2－1 新潟県立図書館運営基本指針（令和3年度～令和5年度）

資料2－2 新潟県立図書館運営基本指針 行動計画

資料2－3 令和5年度 新潟県立図書館の運営基本方針

資料3 令和4年度 新潟県立図書館 運営基本指針行動計画に係る評価

資料4 令和5年度新潟県立図書館運営基本指針行動計画評価シート（中間報告）

資料5 次期新潟県立図書館運営基本指針（令和6年度～令和8年度）について

資料6 電子書籍サービスの開始について

## 新潟県立図書館の概要

1 目的 県民の教育と文化の発展に寄与する。

2 主な沿革

- ・大正4年4月1日 明治記念新潟県立図書館（寄居町）として創立
- ・昭和28年12月21日 2代目 新館開館（一番掘通町）
- ・平成4年8月7日 3代目 現在地に移転・新築（築後31年）  
（創立108年）

3 施設規模

- ・土地 15,600.00 m<sup>2</sup>（新潟県から借地）
- ・建物 8,891.74 m<sup>2</sup>（施設内他館との共通エリア含む。）（RC造 2階建）

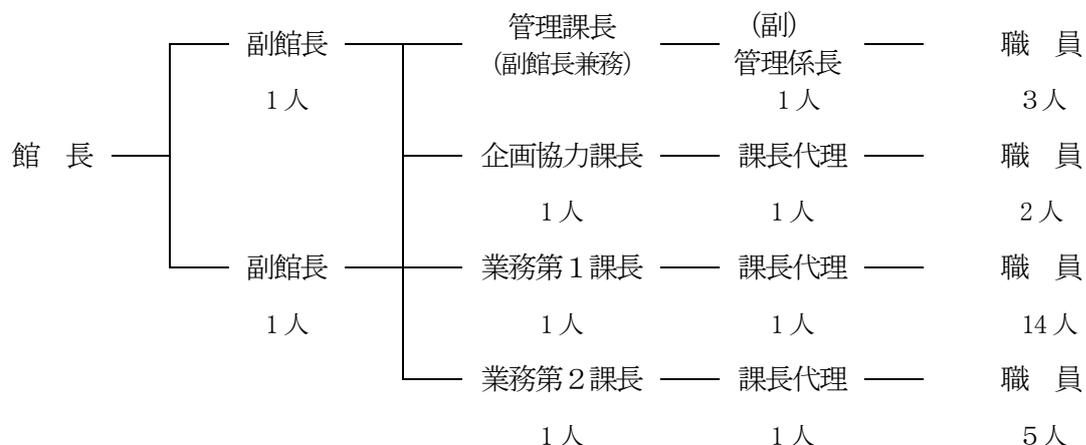
4 蔵書状況 約96万冊（R5.3.31現在） （単位：冊）

一般書	うち洋書	環日本海 関係	郷土関係	AV資料	児童書	合計
744,321	9,588	15,838	139,670	5,430	53,297	958,556

5 入館者等の状況 （単位：人、冊）

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入館者数	438,242	414,216	270,741	296,418	297,012
個人貸出冊数	537,050	502,595	401,488	457,894	435,724

6 組織体系



R5.4.1 職員合計34人（正職員25人（うち司書19人）、正職員以外9人）

7 当初予算額（職員給与費を除く）

R5年度：403,983千円（うち、図書館資料購入費29,398千円）  
R4年度：253,938千円（うち、図書館資料購入費31,713千円）

## 新潟県立図書館協議会の概要

### 1 設置根拠（図書館法第 16 条）

図書館法に基づく新潟県立図書館協議会設置条例（以下「条例」という。）  
【関係法令は資料 1 - 4】

### 2 設置目的（図書館法第 14 条第 2 項）

図書館の運営に関し、館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べるための機関  
【諮問事項は資料 1 - 3】

### 3 組織

#### （1）構成（条例第 2 条）

協議会委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上及び文化の発展に資する活動を行う者並びに学識経験のある者（公募委員を含む。）の中から、新潟県教育委員会が任命

#### （2）定数（条例第 3 条）

協議会の定数は 10 人

### 4 委員長・副委員長

#### （1）選任（新潟県立図書館協議会運営要綱（以下「要綱」という。）第 2 条）

- ・協議会の委員長及び副委員長は委員の互選
- ・任期は在任期間

#### （2）職務（要綱第 3 条）

- ・委員長は協議会を主宰
- ・副委員長は、委員長を補佐し、委員長事故あるときその職務を代理

### 5 任期（条例第 4 条）

2 年間（令和 4 年 8 月 1 日～令和 6 年 7 月 31 日）

### 6 会議

#### （1）招集（要綱第 4 条）

- ・協議会は館長が招集
- ・館長は、委員 3 名以上から附議すべき事項を示して協議会の開催を請求されたときは、会議を招集

#### （2）開催回数（要綱第 5 条）

年 2 回、ただし、必要あるときは随時招集

#### （3）開催通知（要綱第 7 条）

館長が開催 10 日前までに通知（開催場所、日時及び附議すべき案件）  
ただし、緊急を要する場合はこの限りでない

#### （4）欠席・遅参通知（要綱第 8 条）

欠席又は遅参する場合、委員は、開催 5 日前までに館長に通知

## 新潟県立図書館協議会への諮問事項

### 1 新潟県立図書館協議会への諮問事項

館長は、協議会に「新潟県立図書館運営に対する評価」を諮問し、これについて委員の意見を聴取する。

### 2 図書館運営に対する評価

- (1) 平成 20 年の図書館法改正により、「図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。(図書館法第 7 条の 3)」と法律に定められたことを受け、評価を実施する。
- (2) 図書館サービスのたゆまぬ向上を図るため、行政評価の手法を取り入れ、当館の業務を Plan (計画)・Do (実施)・Check (評価)・Act (改善) のサイクルの中で評価することで、業務の適正な運営、改善を行う。
- (3) 評価の結果を広く公表することによって、図書館運営に関して県民への理解を深め、利用の促進と連携・協力を図る。

### 3 図書館運営評価の内容

#### (1) 自己評価

行動計画に係る事業評価

ア 当該年度の運営基本指針に基づく行動計画について、各年度当初に評価項目、指標、数値目標を設定

イ 1～5 の 5 段階で目標達成に向けた進捗状況を定量的に評価するとともに、定量評価を踏まえて、その他の成果や課題等も加味して総合的に評価

(ア) 定量評価

5 = 100% 以上

4 = 90～100%

3 = 80～90%

2 = 70～80%

1 = 70% 未満

(イ) 総合評価

A = 成果を上げている (4.5 以上)

B = 順調に進んでいる (3.5 以上 4.5 未満)

C = 概ね順調に進んでいる (2.5 以上 3.5 未満)

D = 順調に進んでいるとはいえない (1.5 以上 2.5 未満)

E = 事業の見直しが必要 (1.5 未満)

ウ 評価を踏まえ、次年度以降に向けての問題点、改善点及び方向性を検討

#### (2) 外部評価 (協議会意見)

館長は、上記 (1) の自己評価について、図書館協議会に諮問し、協議会はその妥当性等について検討の上、意見を述べる。

#### 4 図書館運営評価のサイクル

年度	月日	協議会	事務局作業
R 4	3月	<b>R 4年度第2回協議会</b> ・ R 4年度評価案の討議 ・ R 3～5年度運営基本指針・行動計画案の討議	
R 5	4月   9月		・ R 5年度事業の実施 ・ R 4評価を県教育委員会に報告 ・ R 4評価の確定及び公表
	9.13	<b>R 5年度第1回協議会</b> ・ R 4年度評価確定の報告 ・ R 5年度の行動計画の進捗状況について討議 ・ 次期運営基本指針・行動計画（R 6～8年度）について討議	
	10月   1月 (予定)		・ R 5年度事業の実施 ・ 次期運営基本指針・行動計画案（R 6～8年度）について検討
	R 6 2 or 3月 (予定)	<b>R 5年度第2回協議会</b> ・ R 5年度評価案の討議 ・ 次期運営基本指針・行動計画案（R 6～8年度）について討議	

## 図書館協議会関連法令等

### ○図書館法（抜粋）

（運営の状況に関する評価等）

**第 7 条の 3** 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（図書館協議会）

**第 14 条** 公立図書館に図書館協議会を置くことができる。

2 図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とする。

**第 15 条** 図書館協議会の委員は、当該図書館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

**第 16 条** 図書館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他図書館協議会に関し必要な事項については、当該図書館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

### ○図書館法施行規則（抜粋）

**第 12 条** 法第 16 条の文部科学省令で定める基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

### ○新潟県立図書館条例

（設置）

**第 1 条** 図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）第 10 条の規定に基づき、県民の教育と文化の発展に寄与するため、新潟県立図書館を新潟市中央区女池南 3 丁目に設置する。

（委任）

**第 2 条** 新潟県立図書館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

### ○新潟県立図書館協議会設置条例

**第 1 条** 図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）第 16 条の規定に基き、新潟県立図書館に図書館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

**第 2 条** 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上及び文化の発展に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

**第3条** 協議会の委員の定数は10人とする。

**第4条** 協議会の委員の任期は2年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

**第5条** 新潟県教育委員会は、特別の事情があると認めるときは、委員の任期中であっても、解職することができる。

## ○新潟県立図書館協議会運営要綱

**第1条** 新潟県立図書館協議会（以下「協議会」という。）の運営に関しては、法令に別段の定めのあるものを除く他、この要綱の定めるところによる。

**第2条** 協議会には、委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は、協議会委員の互選とし、任期は、その在任期間とする。

**第3条** 委員長は、協議会を主宰する。副委員長は、委員長を補佐し、委員長事故あるときその職務を代理する。

**第4条** 協議会は、館長が招集する。館長は、委員3名以上から附議すべき事項を示して協議会の開催を請求されたときは、これを招集しなければならない。

**第5条** 協議会は、年2回これを開く。ただし、必要あるとき随時招集する。

**第6条** 協議会は、必要あるときは、小委員会をつくることができる。

**第7条** 協議会の開催場所、日時及び附議すべき案件は、館長が開催10日前までに通知しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。

**第8条** 協議会に欠席又は遅参する委員は、開催5日前までに、その旨を館長に通知しなければならない。

## 新潟県立図書館運営基本指針（令和3年度～令和5年度）

## 1 地域社会への貢献

地域に向き合い、「住んでよし、訪れてよしの新潟県」の実現を支えます。

## ○県の行政施策と連携した取組

- ・県の行政施策をテーマとした展示の開催
- ・県の重点施策と関連した図書コーナーの設置
- ・県作成のポスター、パンフレット等の掲示・配布

## ○文化資産としての郷土資料の収集・保存・活用

- ・郷土資料の積極的収集・保存
- ・越後佐渡デジタルライブラリーの充実
- ・郷土人物／雑誌記事索引DBの充実

## 2 県内図書館への貢献

県内図書館相互で顔が見える関係づくりをし、図書館サービスの向上に取り組みます。

## ○県内図書館等が実施するサービスへの支援

- ・県内図書館等の貸出サービスへの支援
- ・県内図書館等への訪問事業

## ○県内図書館等職員の人材育成

- ・県内図書館等職員対象の各種研修の開催

## 3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

誰もが尊重される共生社会の実現を目指して、県民一人ひとりの「知りたい・読みたい」を応援します。

## ○県民の読書環境の整備

- ・読書が困難な県民のための利用環境整備
- ・子どもや若い世代向けの読書推進の取組

## ○県立図書館職員の能力の育成

- ・県立図書館職員の幅広い分野の研修、セミナー等への派遣

新潟県立図書館運営基本指針 行動計画 【令和5年4月1日修正】

資料 2 - 2

1 地域社会への貢献

項目名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
(1) 県の行政施策と連携した取組		3年後の姿：県各部局との連携により、県の行政施策を県民に届ける	
① 県各部局とのコラボ展示 [新規]	<ul style="list-style-type: none"> <li>県各部局との協議</li> <li>展示</li> <li>市町村巡回展示の試行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示</li> <li>市町村への巡回展示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示</li> <li>市町村への巡回展示</li> </ul>
【指標】 ギャラリー展示回数 <現状値：7回>	2回	6回	6回
② 特設コーナーにおける県行政施策の広報 [新規]	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策広報コーナーの整備</li> <li>パブリックコメント・コーナーの充実</li> <li>県各部局への周知</li> <li>展示の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示の実施</li> </ul>
【指標】 コーナー展示回数 <現状値：28回>	8回	24回	24回
③ 県各部局への情報提供の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>県庁貸出の手續改善</li> <li>県各部局への周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県庁貸出</li> <li>県庁レファレンスの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県庁貸出</li> <li>県庁レファレンスの実施</li> </ul>
【指標】 県庁貸出冊数 <現状値：185冊>	100冊	120冊	120冊
(2) 文化資産としての郷土資料の収集・保存・活用		3年後の姿：資料の充実と活用を図る	
① 新潟県関係資料の積極的収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>出版情報の多角的な把握</li> <li>積極的収集と展示</li> <li>書庫等の保存環境の整備</li> <li>デジタル化も見すえた行政資料の収集・展示の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出版情報の把握</li> <li>積極的収集と展示</li> <li>保存環境の整備</li> <li>行政資料の収集・展示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出版情報の把握</li> <li>積極的収集と展示</li> <li>保存環境の整備</li> <li>行政資料の収集・展示</li> </ul>

※ 「現状値」は令和4年度実績、指標は全て単年度毎の数値

（「1 地域社会への貢献」の続き）

②	越後佐渡デジタルライブラリーの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル資料の追加</li> <li>利用環境の整備</li> <li>利用者へのPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル資料の追加</li> <li>利用環境の整備</li> <li>利用者へのPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル資料の追加</li> <li>利用環境の整備</li> <li>利用者へのPR</li> </ul>
	【指標】デジタル化画像数 ＜現状値：2,659点＞	1,000点	1,000点	1,000点
	【指標】アクセス件数 ＜現状値：10,907件＞	12,000件	12,000件	12,000件
③	郷土人物/雑誌記事索引データベースの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの登録</li> <li>利用者へのPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの登録</li> <li>利用者へのPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの登録</li> <li>利用者へのPR</li> </ul>
	【指標】データベース収録数 ＜現状値：4,432件＞	2,500件	2,500件	2,500件
	【指標】アクセス件数 ＜現状値：4,442件＞	5,300件	5,300件	5,300件

## 2 県内図書館への貢献

項目名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
(1) 県内図書館等が実施するサービスへの支援 <span style="float: right;">3年後の姿：市町村等と連携して県内図書館全体の利用環境を改善する</span>			
① 県内図書館等への協力貸出の充実 (高等学校宛ては別途記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民へのPR</li> <li>市町村等のニーズ調査と貸出体制の見直し</li> <li>小規模図書館等へのセット図書の見直し及び貸出</li> <li>展示用コレクションの貸出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民へのPR</li> <li>セット内容の随時見直し</li> <li>コレクションの随時見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民へのPR</li> <li>セット内容の随時見直し</li> <li>コレクションの随時見直し</li> </ul>
	【指標】協力貸出冊数 ＜現状値：14,362冊＞	15,000冊	16,000冊

（「2 県内図書館への貢献」の続き）

②	【指標】 訪問等回数(研修以外)	・相談・打合せなど、様々な機会を捉えて訪問の実施	・相談・打合せなど、様々な機会を捉えて訪問の実施	・相談・打合せなど、様々な機会を捉えて訪問の実施
	【指標】 訪問等回数(研修以外) ＜現状値：21回＞	20回以上	20回以上	20回以上
③	県立高等学校図書館への支援	・高等学校への訪問相談 ・協力貸出の推進 ・連携事業の実施	・高等学校への訪問相談 ・協力貸出の推進 ・連携事業の実施	・高等学校への訪問相談 ・協力貸出の推進 ・連携事業の実施
	【指標】 高等学校協力貸出冊数 ＜現状値：442冊＞	50冊	120冊	200冊
(2) 県内図書館等職員の人材育成		3年後の姿：研修内容や手法の工夫により参加者を増やす		
	各種研修会等の実施	・階層別研修等の実施 ・オンライン研修 ・訪問研修の実施 ・訪問研修メニューの改善 ・参考となる図書の紹介・貸出	・階層別研修等の実施 ・オンライン研修 ・訪問研修の実施 ・訪問研修メニューの改善 ・参考となる図書の紹介・貸出	・階層別研修等の実施 ・オンライン研修 ・訪問研修の実施 ・訪問研修メニューの改善 ・参考となる図書の紹介・貸出
	【指標】 研修会等参加人数（訪問研修以外）＜現状値：295人＞	200人	200人	200人
	【指標】 市町村訪問研修回数 ＜現状値：15回＞	10回以上	10回以上	10回以上
	【指標】 訪問研修メニュー数 ＜現状値：4＞	4	5	5

### 3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

項目名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
(1) 県民の読書環境の整備		3年後の姿：サービスの幅を広げることで読書の機会が充実する	
① 利用サービスの改善 [一部新規]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用しやすいレイアウト変更等</li> <li>・調査相談（レファレンス）機能の向上</li> <li>・SNSによる情報発信</li> </ul>	・左記を含む運用の改善	・左記を含む運用の改善
【指標】入館者数 ＜現状値：297,012万人＞	30万人	40万人	40万人
【指標】貸出冊数 ＜現状値：435,724冊＞	42万冊	45万冊	45万冊
【指標】レファレンス協同データベース登録件数 ＜現状値：40件＞	30件	40件	40件
【指標】SNSへの記事掲載回数 ＜現状値：124回＞	24回	120回	120回
② 読書に困難のある県民へのサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新コーナー設置と資料の充実</li> <li>・利用者のニーズに合ったサービスの提供</li> <li>・サピエ等サービスのPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の充実</li> <li>・利用者のニーズに合ったサービスの提供</li> <li>・サピエ等サービスのPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の充実</li> <li>・利用者のニーズに合ったサービスの提供</li> <li>・サピエ等サービスのPR</li> </ul>
【指標】サピエ資料の貸出冊数 ＜現状値：167点＞	220点	240点	260点
③ こどもや若い世代の読書推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対応を踏まえたこども向けイベントの再開</li> <li>・高等学校への協力貸出（再掲）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども向けイベントの実施</li> <li>・高等学校への協力貸出（再掲）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども向けイベントの実施</li> <li>・高等学校への協力貸出（再掲）</li> </ul>

※ 「現状値」は令和4年度実績、指標は全て単年度毎の数値

（「3 県民の生涯にわたる学びへの貢献」の続き）

(2) 県立図書館職員の能力の育成		3年後の姿：図書館業務を支える職員の能力向上を図る		
職員の研修機会の充実	・研修に参加しやすい環境の整備 ・研修成果の共有と自己研鑽	・研修に参加しやすい環境の整備 ・研修成果の共有と自己研鑽	・研修に参加しやすい環境の整備 ・研修成果の共有と自己研鑽	・研修に参加しやすい環境の整備 ・研修成果の共有と自己研鑽
【指標】職員全体研修会の開催 ＜現状値：2回＞	2回	2回	2回	2回
【指標】館内研修における職員の 発表回数 ＜現状値：10回＞	10回	10回	10回	10回
【指標】職員の研修・会議等参加 平均回数（全体研修を除く） ＜現状値：2.2回＞	2回	2回	2回	2回

※ 「現状値」は令和4年度実績、指標は全て単年度毎の数値

## 令和 5 年度 新潟県立図書館の運営基本方針

令和 5 年度の新潟県立図書館の運営は、「新潟県立図書館 運営基本指針（令和 3 年度～ 5 年度）」に基づき、3 年間の最終年度として以下のとおり取り組む。

### 1 地域社会への貢献

県行政との連携や、郷土資料の収集等について、継続して取り組んでいく。

#### (1) 県の行政施策と連携した取組

昨年度開始した、県の行政施策を県民に広報する展示等に継続して取り組む。

#### (2) 文化資産としての郷土資料の収集・保存・活用

郷土資料について、より広く情報を把握し資料の収集につなげていく。ホームページのリニューアルを経て「越後佐渡デジタルライブラリー」「郷土人物/雑誌記事索引データベース」の収録数増加と、活用促進に向けた広報に取り組む。

### 2 県内図書館への貢献

県内の市町村図書館、県立高等学校図書館等の支援に継続して取り組み、県内図書館全体のレベルアップにつなげる。

#### (1) 県内図書館等が実施するサービスへの支援

県内図書館等のニーズを把握するとともに、セット図書の利用による協力貸出の充実を図る。また、電子書籍等を活用した、県立高等学校へのサービス向上にも取り組む。

#### (2) 県内図書館等職員の人材育成

階層別・訪問の各種研修を、市町村立図書館等の要望も取り入れて充実を図るとともに、テーマ・内容によりオンライン研修も活用し、より多くの参加が得られるよう努める。

### 3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

読書環境を整え、県民の学び続ける意欲を支援するとともに、図書館サービスを支える県立図書館職員の能力育成に取り組む。

#### (1) 県民の読書環境の整備

電子書籍サービスを開始し、広く県民に活用してもらえよう周知に努めるとともに、図書館利用の利便性向上に引き続き取り組み、運用の改善を図る。

#### (2) 県立図書館職員の能力の育成

多様な研修の受講機会を設けるとともに、職員間で成果を共有する機会を増やすなどして、職員全体の能力のレベルアップを図る。

## 令和4年度 新潟県立図書館 運営基本指針行動計画に係る評価

### 1 評価項目（指標）

#### (1) 地域社会への貢献

指標	目標	実績	達成率	評価
ア [行政連携] ギャラリー展示回数	6回	7回	117%	A
イ [行政連携] コーナー展示回数	24回	28回	117%	A
ウ 県庁貸出冊数	120冊	185冊	154%	A
エ 越後佐渡DL デジタル化画像数	1,000点	2,659点	266%	A
オ 越後佐渡DL アクセス件数	12,000件	10,907件	91%	B
カ 郷土人物/雑誌記事索引DB収録数	2,500件	4,432件	177%	A
キ 郷土人物/雑誌記事索引DBアクセス件数	5,300件	4,442件	84%	C

#### (2) 県内図書館への貢献

指標	目標	実績	達成率	評価
ア 県内図書館等への協力貸出冊数	16,000冊	14,362冊	90%	B
イ 訪問等回数（研修以外）	20回	21回	105%	A
ウ 高等学校図書館への協力貸出冊数	120冊	442冊	369%	A
エ 市町村職員向け研修会等参加人数（訪問研修以外）	200人	295人	148%	A
オ 市町村訪問研修回数	10回	15回	150%	A
カ 訪問研修メニュー数	5	4	80%	C

#### (3) 県民の生涯にわたる学びへの貢献

指標	目標	実績	達成率	評価
ア 入館者数	400,000人	297,012人	74%	D
イ 個人貸出冊数	450,000冊	435,724冊	97%	B
ウ レファレンス協同DB登録件数	40件	40件	100%	A
エ SNSへの記事掲載回数	120回	124回	103%	A
オ サピエ資料の貸出冊数	240点	167点	70%	D
カ 職員全体研修会の開催（館内）	2回	2回	100%	A
キ 館内研修における職員の発表回数	10回	10回	100%	A
ク 職員の研修・会議等参加平均回数（全体研修除く）	平均2回	平均2.2回	111%	A

### 2 図書館協議会による評価

#### (1) 協議会の開催

・日時・場所 令和5年3月17日（金）新潟県立図書館・大研修室

#### (2) 委員長とりまとめ

(1)における各委員の意見を千錫烈委員長（関東学院大学社会学部教授）がとりまとめ、図書館協議会による評価とした。

# 令和4年度新潟県立図書館運営基本指針 行動計画評価シート

## 1 地域社会への貢献

・ 定量評価 (5=100%以上 4=90~100% 3=80~90% 2=70~80% 1=70%未満)

・ 総合評価 (A=成果を上げている (4.5以上)、B=順調に進んでいる (3.5以上4.5未満)、C=概ね順調に進んでいる (2.5以上3.5未満)、D=順調に進んでいるとはいえない (1.5以上2.5未満)、E=事業の見直しが必要 (1.5未満))

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組 (実施状況)	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県の行政施策と連携した取組	県各部署とのコラボ展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>県各部署へのPR</li> <li>展示の実施</li> <li>「読書お便りコンクール」市町村巡回展示の実施</li> </ul>	ギャラリー展示回数【6回】	<p>コラボ展示について庁内に連携の呼びかけを行い、各部署から展示要望が寄せられた。</p> <p>年度前半は県立高等学校や一般県民の利用が多かったが、県各部署との連携展示は後半に集中して実施した。</p> <p>&lt;実績&gt;</p> <p>①めざせ！食品ロス削減パネル展 (県環境局資源循環推進課) 9.27~10.18</p> <p>②読書おたよりコンクール受賞作品展示 10.25~11.27</p> <p>③「海洋プラスチック」削減に向けたパネル展 (県環境局資源循環推進課) 11.8~22</p> <p>④新潟県環境保全ポスターコンクール受賞作品展 (県環境局環境政策課) 1.17~30</p> <p>⑤「いのち・愛・人権」パネル展 (新潟県人権・同和センター) 1.17~30</p> <p>⑥拉致問題を考える巡回パネル展 (県知事政策局国際課) 1.30~2.14</p> <p>⑦にいがたフォレストリーマガジン写真展 (県農林水産部林政課) 3.14~28</p>	7回	達成率117% 評価 (5) 100%以上	庁内に連携の呼びかけを行い、各部署から展示要望が寄せられた結果、当初目標を達成した。次年度も引き続き、行政連携による県施策の情報発信に取り組んでいく。昨年度から開始した「読書お便りコンクール」市町村巡回展示は県内4館で開催予定で、読書活動推進のPRにつながっている。	A	県の施策を県民にPRする場としてのコラボ展示等の図書館利用は効果的である。引続きの実施を望む。 「県の行政施策と連携した取組」では全ての項目で目標が達成されており、職員の努力がうかがえる。各部署とのコラボ展示、行政施策の広報は市としても参考にさせていただきたい。
	特設コーナーにおける県行政施策の広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策広報コーナーの整備</li> <li>パブリックコメント・コーナーの充実</li> <li>県各部署への周知</li> <li>展示の実施</li> </ul>	コーナー展示回数【24回】	<p>県職員専用ポータルサイトを活用して庁内に呼びかけを行うとともに、来館者の関心が高そうな施策について当館から連携を打診し展示につなげた。</p> <p>展示資料及び施策をより効果的にPRできるよう、展示コーナー内でブックリストや連携先から提供されたパンフレット、プレゼント付きのアンケート、啓発グッズ等の配布を実施した。また、ホールでのイベントやギャラリー展示と連動させた展示も実施した。</p> <p>(連携実績)</p> <p>食品・流通課、県立歴史博物館、生涯学習推進課、障害福祉課、県立近代美術館、観光企画課、県立歴史博物館、健康づくり支援課、県立万代島美術館、県民生活課、人権啓発室、広報広聴課</p>	28回	達成率117% 評価 (5) 100%以上	県施策に関する図書のPR展示について様々な部局から申込みがあり、多彩なテーマで展示を実施することができた。パンフレットや啓発グッズは来館者にも好評で、県施策のPRにつながった。またアンケートも多くの方にご回答いただき、展示を実施した部局においては県民の意見を聴取する貴重な機会にもなったと思われる。	A	「県の行政施策と連携した取組」では全ての項目で目標が達成されており、職員の努力がうかがえる。各部署とのコラボ展示、行政施策の広報は市としても参考にさせていただきたい。(再掲)
	県各部署への情報提供の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>県庁貸出の手続改善</li> <li>県各部署への周知</li> </ul>	県庁貸出冊数【120冊】	<p>県行政を支える取組として県各部署や職員への情報提供によるサポート体制の充実を目指し、申込方法の簡素化などの運用改善を図った。</p> <p>県職員専用ポータルサイトを活用してサービスの周知を実施した。この他にも、通常業務で他部局と情報交換を行った際に県庁貸出サービスを紹介し、その後、活用につながった事例があった。</p>	185冊	達成率154% 評価 (5) 100%以上	県職員専用ポータルサイトでの呼びかけにとどまらず、日常業務で交流した折など、様々な機会をとらえて県各部署へPRを行ったことにより、認知度の向上につながっている。	A	県各部署への図書館の有用性のアピールにもなり、目標も達成しており評価できる。引き続き、認知度の向上・貸出利用につながるよう施策を継続してさせていただきたい。

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
文化資産としての郷土資料の収集・保存・活用	新潟県関係資料の積極的収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>出版情報の多角的な把握</li> <li>積極的収集と展示</li> <li>書庫等の保存環境の整備</li> <li>デジタル化も見すえた行政資料の収集・展示の改善</li> </ul>		新聞や機関誌などのチェックにより郷土資料の出版情報を多角的に収集した。行政資料の収集については欠号状況・出版状況のチェックを行い、寄贈依頼・受入れを進めた。今までデータベース化に至っていなかった過去の行政資料やパンフレット類についても、データ作成・製本・受入に取り組んだ。書庫内でのカビ除去作業も適宜進めており、書庫入口の粘着マット設置などによるカビ防止策も継続して行っている。			行政資料については、概ね順調に寄贈依頼・受入れを進めることができた。今年度は大口の寄贈申込みがあり、公用車で受取りに行き、貴重な資料の受入れを行うことができた。HPでの郷土資料寄贈の呼びかけを更に工夫して積極的な収集に努めていきたい。		新潟県関係の郷土資料について、収集したものをどのように活用したか、あるいはしていくのかということも記載してほしい。  小・中学校では、郷土の偉人について学習する機会を設定している学校が多いので、市町村の図書館とこれまで以上に連携し、情報共有及びPR活動を展開しても良いと考える。
	越後佐渡デジタルライブラリーの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル資料の追加</li> <li>利用環境の整備</li> <li>利用者へのPR</li> </ul>	デジタル化画像数【1,000点】	予定通り4機関に参加いただき無事撮影を行った。令和5年3月までにデジタルライブラリに追加・公開する予定である。	2,659点	達成率266% 評価（5） 100%以上	当初の年間スケジュールどおり作業を進めることができた。撮影した資料点数は56となり、合計で2,650画像となった。	A	コンテンツ数は順調に伸びているが、一方でアクセス件数は目標値に届かなかった。利用者のアクションが無いと伸びない項目なので、図書館側がコントロールできずに難しい部分もあるが、引き続き、現状のPR施策（HP上のギャラリー更新や現物の展示）を続けていくことが重要であると考えている。
			アクセス件数【12,000件】	ホームページ上で「新潟県の歴史と文化を旅するギャラリー」を2ヶ月ごとに更新して、ツイッターでもPRに努めた。併設の文書館主催の講座と連携して、デジタル化した資料の現物を閲覧室内でも展示するなど利用者へのPRを行った。	10,907件	達成率91% 評価（4） 90～100%	ギャラリーの更新を定期的実施し、SNSでのPRも行ったが目標達成には至らなかった。3月の新規データ公開に合わせ、さらにPRを行っていきたい。	B	アクセス件数については、どのようなものが所蔵されているかを知らせていく工夫などをして評価の向上に努めてほしい。  とりわけ、デジタル化画像数及びデータベース収録数の達成率を素晴らしく感じる。今後も更なる伸びを期待する。  「越後佐渡デジタルライブラリー」は点数も増え、利用も楽しみである。  小・中学校では、郷土の偉人について学習する機会を設定している学校が多いので、市町村の図書館とこれまで以上に連携し、情報共有及びPR活動を展開しても良いと考える。（再掲）
	郷土人物/雑誌記事索引データベースの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの登録</li> <li>利用者へのPR</li> </ul>	データベース収録数【2,500件】	郷土人物索引、郷土雑誌記事索引のいずれも予定していた採録対象資料のデータ登録を終了した。	4,432件	達成率177% 評価（5） 100%以上	目標を超える4,248件の登録を行うことができた。今後も登録作業を進め、データベースの充実に努めていきたい。	A	収録数は順調に伸びているが、アクセス数が目標に届いていない。主な取り組みで挙げられた河井継之助のパスファインダーのように、PRしやすいコンテンツの充実が求められる。富山県立図書館のふるさと人物データベースでは、100人名が挙げられて、そこから選択する方式がとられており、わかりやすいインターフェイスとなっている。こうしたコンテンツなどの導入検討も今後は必要だと考える。
			アクセス件数【5,300件】	郷土人物について調べる際のデータベースの使い方を案内するページを作成してPRしていく。3月上旬に「人物ピックアップ！河井継之助」を公開する予定である。	4,442件	達成率84% 評価（3） 80～90%	昨年度よりはアクセス数が増加したが、目標値を下回った。ホームページのリニューアルに併せて更なるPRを行っていきたい。	C	アクセス件数については、どのようなものが所蔵されているかを知らせていく工夫などをして評価の向上に努めてほしい。（再掲）  とりわけ、デジタル化画像数及びデータベース収録数の達成率を素晴らしく感じる。今後も更なる伸びを期待する。（再掲）  小・中学校では、郷土の偉人について学習する機会を設定している学校が多いので、市町村の図書館とこれまで以上に連携し、情報共有及びPR活動を展開しても良いと考える。（再掲）

## 2 県内図書館への貢献

・定量評価 (5=100%以上 4=90~100% 3=80~90% 2=70~80% 1=70%未満)

・総合評価 (A=成果を上げている (4.5以上)、B=順調に進んでいる (3.5以上4.5未満)、C=概ね順調に進んでいる (2.5以上3.5未満)、D=順調に進んでいるとはいえない (1.5以上2.5未満)、E=事業の見直しが必要 (1.5未満))

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組 (実施状況)	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県内図書館等が実施するサービスへの支援	県内図書館等への協力貸出の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民へのPR</li> <li>市町村等のニーズ調査と貸出体制の見直し</li> <li>小規模図書館等へのセット図書の見直し及び貸出</li> <li>展示用コレクションの貸出</li> </ul>	協力貸出冊数【16,000冊】	従来の制度での協力貸出に加え、昨年10月に開始した市町村立図書館等へのテーマ別図書セット貸出サービスを本格化させた。市町村図書館からの購入図書のリクエストを常時受け付けており、これによりニーズを把握している。	14,362冊	達成率90% 評価 (4) 90~100%	新型コロナウイルス感染症による利用者の行動変容に加え、冬季の大雪等が図書館に出かけるという行動を鈍らせた結果と分析している。目標値を下回っているものの、今後も県内市町村との情報交換によりニーズを把握し、利用につながる蔵書の充実を図っていく。また、次年度はSNS等を活用して制度の活用を積極的に訴え、利用促進を図りたいと考えている。	B	通常のILL (相互貸借) だけでなく「テーマ別図書セット」の貸出の本格化などの取り組みは非常に評価できる。県立図書館の専門的な選書眼で選んだ図書を市町村にセット貸することは市町村立図書館の選書や蔵書構成の一助にもなると考える。達成率は90%だが市町村立図書館もコロナ禍で利用者が減っているところが多いため、仕方ない部分もあると考える。 各図書館との連携を密に行うことにより、今後の改善が出来るものと思う。
	県内図書館等への訪問の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村図書館等への訪問相談</li> <li>高等学校への訪問相談</li> <li>相談・打合せなど、様々な機会を捉えて訪問の実施</li> </ul>	訪問等回数 (研修以外)【20回以上】	以下の訪問事業を実施し、各館の相談対応や情報交換等を行った。 ①5月26日 訪問相談 (県立羽茂高校図書館) ②6月3日 新館視察 (長岡市立栃尾図書館) ③6月28日 訪問相談 (県埋蔵文化財調査事業団) ④6月29日 阿賀野市学校図書館協議会図書館主任研修会 (阿賀野市立神山小学校) ⑤6月30日 新潟県立・市立・大学図書館相互協力担当者会議 (新潟市立中央図書館) ⑥7月8日 訪問相談 (県立長岡高校図書館) ⑦7月22日 訪問相談 (柏崎市立図書館) ⑧7月29日 訪問相談 (十日町高等学校図書館) ⑨8月31日 訪問相談 (県立柏崎高校図書館) ⑩9月21日 電子図書館サービス実施状況ヒアリング (三条市教育委員会) ⑪9月21日 電子図書館サービス導入検討状況ヒアリング (田上町教育委員会) ⑫9月26日 訪問セミナー (弥彦村公民館図書室)「地域資料の収集と活用」 ⑬10月6日 訪問セミナー (小千谷市立図書館)「地域資料の収集と活用」 ⑭11月18日 訪問相談 (県高校図書館協議会柏崎地区連絡会) ⑮11月18日 新潟県視覚障害者情報センター事業推進懇談会 (県視覚障害者情報センター) ⑯11月30日 訪問相談 (出雲崎町立出雲崎図書館) ⑰11月11日 第2回新潟県立・市立・大学図書館相互協力担当者会議 (新潟市立中央図書館) ⑱2月9日 障害者サービス担当者情報交換会 (県視覚障害者情報センター) ⑲2月10日 訪問相談 ( (田上町地域学習センター) ⑳3月1日 訪問相談 (長岡市立中央図書館) ㉑3月13日 訪問相談 (弥彦村公民館図書室)	21回	達成率105% 評価 (5) 100%以上	年度当初の目標を達成した。次年度は電子図書館サービスの検討状況等も踏まえながら、引き続き相談や情報交換等により、状況に応じたきめ細かな支援を行っていきたい。	A	今回は目標を達成したが、先方からの依頼によって訪問回数が変わってしまうので、例えば、希望がなくても県立図書館側から定期的に県内の図書館を順番に訪問することも重要だと考える。(県立図書館職員と市町村立図書館職員との交流にもつながる。) 会議の際にも話が合ったように、現場を見た上でのアドバイスなど実際に訪問することが有効な場合を除き、あえて訪問する必要がない場合も多いのではないかとと思う。 県立高等学校図書館への訪問相談は意義深いことであるので、今後、いっそう増加することを望む。 大切な活動だが、外部の人間からはわかりにくい活動と思われるので、各館からの相談内容や具体的な指導など、簡条書きで表記していただければと思う。
	県立高等学校図書館への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校への訪問相談</li> <li>協力貸出の推進</li> <li>連携事業の実施</li> </ul>	高等学校協力貸出冊数【120冊】	県立学校への図書貸出サービスに関するチラシ(利用カード作成の案内を含む)、サービス利用マニュアルを作成し、5月末に県立高等学校等へ配布をした。	442冊	達成率368% 評価 (5) 100%以上	学校図書館司書との情報交換の機会が増え、学校現場での資料のニーズや活用方法、意見などを詳しく聞くことができるようになった。今後も、より多くの学校と気軽に意見が言える関係性を築き、現場の意見をサービス改善や選書に役立てていきたい。	A	身近な市町村立図書館との連携も多い中で、健闘している項目である。学校司書との連携や授業での活用など今年度の実績を引き続き来年度につなげて行っていただきたい。 高校生向けに、学校配付のタブレットによる調べ学習や読書指導等における充実した活用につながる取組があるとよいと感じる。

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県内図書館等職員の人材育成	各種研修会等の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階層別研修等の実施</li> <li>・オンライン研修</li> <li>・訪問研修の実施</li> <li>・訪問研修メニューの改善</li> <li>・参考となる図書の紹介・貸出</li> </ul>	研修会等参加人数（訪問研修以外）【200人】	<p>オンライン形式を取り入れ、より多くの職員が参加しやすくなるよう取り組んだ。</p> <p>&lt;実績&gt;</p> <p>①5月25日 視覚障害者サービス研修基礎編（オンライン）33人          ②6月16～17日 新潟県公共図書館新任職員研修会（1日目・会場11人、オンライン15人 2日目・会場10人、オンライン15人）計51人          ③7月1日 新潟県公共図書館児童部門研究集会（集合）39人          ④9月27日 新潟県公共図書館中堅職員研修（オンライン）50人          ⑤10月4日 新潟県公共図書館総合部門研究集会（オンライン）40人          ⑥11月25日 視覚障害者サービス研修基礎編（オンライン）13人          ⑦3月8日 新潟県公共図書館専門職員研修会（オンライン）69人</p>	295人	<p>達成率148%</p> <p>評価（5） 100%以上</p>	<p>年度当初の目標を達成した。視覚障害者サービス研修基礎編をオンラインで実施し、より多くの参加が得られた。遠隔地の図書館を中心にオンライン研修の要望があるため、次年度も開催方法を工夫しながら充実した内容の研修を実施し、県内図書館のレベルアップを図っていく。</p>	A	<p>目標を達成して県内の図書館職員のレベルアップに貢献できている。オンライン・対面どちらもメリット・デメリットがあるので、研修の趣旨や参加者を勘案して、参加者も多く内容も充実し、職員同士の交流もできるような開催方法で引き続き研修を開催していただきたい。</p> <p>県立図書館が持つ大きな役割としての、市町村立図書館に対する支援があり、ZOOMを活用した研修等は多くの方からの利用が可能であり非常に効果的であり、対面と併用しての実施を望む。</p> <p>読書バリアフリー法実施に伴う障害者サービスの充実のためには、各図書館職員の障害者への理解が重要であり、基礎編と実践編の研修を進めていく必要があり、視覚障害者情報センターとしても最大限の協力を行いたい。</p> <p>A評価を維持できるよう積極的な研修への呼びかけや、研修内容の充実にも努めてほしい。</p>
			市町村訪問研修回数【10回以上】	<p>以下の訪問研修を実施し、県内図書館の人材育成に取り組んだ。</p> <p>&lt;実績&gt;</p> <p>①6月24日 視覚障害者サービス研修・実践編（上越市立高田図書館）          ②6月30日 視覚障害者サービス研修・実践編（柏崎市立図書館）          ③7月6日 視覚障害者サービス研修・実践編（佐渡市立両津図書館）          ④7月7日 レファレンス研修・初級編（新発田市立中央図書館）          ⑤7月11日 レファレンス研修・初級編（新潟医療福祉大学図書館）          ⑥9月12日 レファレンス研修・初級編（弥彦村公民館図書室）          ⑦9月26日 レファレンス研修・郷土レファレンス編（十日町図書館）          ⑧10月13日 視覚障害者サービス研修・実践編（新発田市立中央図書館）          ⑨11月2日 資料修理や保存の基礎（新潟大学附属中央図書館）          ⑩11月18日 資料修理や保存の基礎（聖籠町立図書館）          ⑪11月28日 レファレンス研修・初級編（燕市立図書館）          ⑫1月13日 資料修理や保存の基礎（村上市立中央図書館）          ⑬2月1日 レファレンス研修・初級編（新潟市立中央図書館）          ⑭2月27日 レファレンス研修・初級編（弥彦村公民館図書室）          ⑮3月6日 資料修理や保存の基礎（長岡市立中央図書館）</p>	15回	<p>達成率150%</p> <p>評価（5） 100%以上</p>	<p>年度当初の目標を達成した。図書館サービスの要であるレファレンス研修のニーズが依然として高いため、次年度も引き続き研修内容の向上を図りつつ、目標の達成を目指していきたい。</p>	A	<p>15回と目標よりも大幅に多い回数となり、県内の図書館職員のレベルアップに貢献できている。相手先からの依頼によって数値が変化するので、例えば訪問研修をしていない図書館へ直接アピールをするなどの方策も今後は検討していただきたい。</p> <p>A評価を維持できるよう積極的な研修への呼びかけや、研修内容の充実にも努めてほしい。（再掲）</p> <p>大切な活動だが、外部の人間からはわかりにくい活動と思われるので、各館からの相談内容や具体的な指導など、簡条書きで表記していただければと思う。（再掲）</p>
			訪問研修メニュー数【5】	<p>視覚障害者情報センターとの連携による障害者サービス研修を再編成し、基礎編（オンライン）と実践編の2段階で実施、研修メニューの改善と充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害者サービス研修・実践編</li> <li>・レファレンス研修（初級編）</li> <li>・レファレンス研修（郷土編）</li> <li>・資料の修理や保存の基礎</li> </ul>	4	<p>達成率80%</p> <p>評価（3） 80～90%</p>	<p>訪問セミナーの経験値蓄積により内容を向上させ、研修として実施できるよう取り組む予定であったが、前半はコロナウイルス感染症の影響もあり訪問の実績が伸びず、メニュー数の増加には繋がらなかった。次年度は訪問セミナーの内容をブラッシュアップさせ、研修メニューに加えることで目標の達成を目指していきたい。</p>	C	<p>目標5で今回は4だったので、今後、コンテンツ数の拡大を期待したい。（いたずらに数を増やすのではなく、しっかり内容を吟味して充実したメニューとしていただきたい）。県立図書館の職員が講師を務めることから、県立図書館職員のスキルアップにもつながるため、多くの県立図書館職員が講師ができるようになっていただきたい。</p> <p>A評価を維持できるよう積極的な研修への呼びかけや、研修内容の充実にも努めてほしい。（再掲）</p> <p>大切な活動だが、外部の人間からはわかりにくい活動と思われるので、各館からの相談内容や具体的な指導など、簡条書きで表記していただければと思う。（再掲）</p>

### 3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

・定量評価 (5=100%以上 4=90~100% 3=80~90% 2=70~80% 1=70%未満)

・総合評価 (A=成果を上げている (4.5以上)、B=順調に進んでいる (3.5以上4.5未満)、C=概ね順調に進んでいる (2.5以上3.5未満)、D=順調に進んでいるとはいえない (1.5以上2.5未満)、E=事業の見直しが必要 (1.5未満))

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組(実施状況)	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県民の読書環境の整備	利用サービスの改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用しやすいレイアウト変更等</li> <li>・調査相談(レファレンス)機能の向上</li> <li>・SNSによる情報発信</li> </ul>	入館者数【40万人】 ※コロナ禍の影響を考慮	県職員専用ポータルサイトでの職員へのお知らせやツイッターでの情報発信に努めるとともに、資料の貸出サービスに際して利用者の利便性を高めるため手続きを簡素化するなどの改善を実施した。また、利用者要望に応じて館内の利用環境改善のや利用ガイド等の改訂作業を進めている。	297,012人	達成率74% 評価(2) 70~80%	県内における新型コロナウイルス感染症の流行は落ち着きつつあり、秋には入館者数も復調傾向にあったが、12月から1月にかけての大雪により来館者が減少した。新型コロナウイルス感染症の5類移行に備え、利用環境の改善に取り組んでいく。	D	入館者数は74%だが、貸出冊数は97%とほぼ目標達成できているのは、コロナ禍の中の新しい読書習慣にもきちんと対応できた証左であり、評価できる内容である。(入館者数についてはコロナ禍や大雪等で図書館側がコントロールできない要素も多いため致し方ないと考え)
			貸出冊数【45万冊】 ※コロナ禍の影響を考慮	資料費の削減に対応しながら、引き続き資料収集方針のもと効果的・効率的な選書に取り組むとともに、閲覧室展示では時事的なテーマの展示や県各部署との連携展示を積極的に行い、資料の利用促進を図った。併せて書架内展示や資料の見せ方の工夫など、魅力ある棚づくりに努めた。	435,724冊	達成率97% 評価(4) 90~100%	様々な取組により11月までの貸出冊数は順調に推移していたが、12月から1月にかけての大雪により来館者が減少し、その後の貸出冊数も伸び悩んだ。例年、気候が安定する2、3月は来館者数が回復する傾向にあることから、引き続き利用促進に取り組んでいく。	B	今後は電子書籍サービスの早期導入により、若い世代や遠隔地の利用者の増加やサービスの充実につなげてもらいたい。 「入館者数」「個人貸出冊数」「サビエ資料の貸出冊数」の評価については要因もあろうが、図書館側からの働きかけの強化が必要と思う。
			レファレンス協同データベース登録件数【40件】	利用者から寄せられた調査相談内容から、主に郷土に関するテーマなど、県民の調査研究活動に資すると思われる事例や関心が高いと思われる事例を選定してデータ登録し、インターネット上に一般公開する。	40件	達成率100% 評価(5) 100%以上	2月末に新規データを一般公開したことにより、一般に公開している登録データは680件から720件に増加した。当館登録データの直近1年間におけるページビューは105,754回に上っており、県内外を問わず、新潟県に関する調査研究活動に寄与することができている。次年度以降も引き続き、調査相談機能の向上に取り組んでいきたい。	A	目標通り行われている点は大いに評価できる。全国の図書館が参加しているが新潟県立図書館職員のレファレンス能力のPRにもなるので、目標値以上のコンテンツ掲載を目指していただきたい。720件の登録件数も県立図書館では健闘している件数であり、大いに評価できるものである。(ぜひ福井県立図書館の2,000件を目指していただきたい。)
			SNSへの記事掲載回数【120回】	子ども向けイベントの情報や児童青少年向けコーナー等の若年層向けの情報や、周辺景観の様子をツイッターを活用して発信し、来館利用に繋がるように取り組んだ。	124回	達成率103% 評価(5) 100%以上	年度当初の目標を達成した。フォロワー数も徐々に増えてきており、図書館をより身近に感じてもらえるツールとして、次年度以降も活用していきたい。他館の事例等も参考にしつつ、図書館へ関心を持ってもらえる、来館のきっかけに繋がる取り組みを考えていきたい。	A	SNSの活用は頻繁に更新してもスルーされることも多いので120回の目標は適当であると考え。(協議会もしっかりPRされていて、いろいろな情報を提供していて良いと思う。) 今の時代、SNSでの各種情報発信が効果的であり、読書離れの若者向けの発信を積極的に行ってもらいたい。 コロナ禍などで、不登校や成人のひきこもりなど、鬱々とした人が増えているように思われる。読書によって暗い心が救われることもあると思う。日常の作業の多い中、大変とは思いますが、司書のお勧めの本や、新入荷の本の紹介をTwitterなどで呟いてみてはどうか。
読書に困難のある県民へのサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新コーナー設置と資料の充実</li> <li>・利用者のニーズに合ったサービスの提供</li> <li>・サビエ等サービスのPR</li> </ul>	サビエ資料の貸出冊数【240点】	視覚障害者情報センターと連携して実施した「市町村図書館職員向けの障害者サービス研修」では、オンライン型・訪問型の両方でサビエ活用の呼びかけを行った。12月にギャラリーで「見て、聴いて、楽しむ!バリアフリー読書」展示および関連イベントを実施し、サビエをはじめとした障害者向け資料やサービスの普及・啓発に努めた。サビエ資料を利用するための登録手続きについて、障害等により自力での申込書記入が困難な方に対し、電話による利用登録ができるよう制度を拡充した。	167点	達成率70% 評価(1) 70%未満	サビエの利用者は昨年度より若干名増加したものの、継続利用につながらない場合もあり、全体的な貸出冊数は伸びなかった。引き続き関連団体に向けたPR方法を検討していく。また、次年度導入予定の電子書籍サービスについても、それぞれのニーズにあった資料を提供できるよう、より効果的な広報の方法を検討していきたい。	D	サビエ資料の貸出点数は利用者次第で数値が変わってくるので、達成率が低評価なのは仕方ないと思う。読書バリアフリー法の理念に沿って、利用者は少なくとも、こうした資料の充実を図っていただきたい。 「入館者数」「個人貸出冊数」「サビエ資料の貸出冊数」の評価については要因もあろうが、図書館側からの働きかけの強化が必要と思う。(再掲)	
こどもや若い世代の読書推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対応を踏まえた子ども向けイベントの再開</li> <li>・高等学校への協力貸出(再掲)</li> </ul>		12月から読み聞かせイベントを再開した。毎週金曜日の午前、午後の2回開催し、換気、消毒、検温等の感染症対策をとりながら、職員が絵本の読み聞かせと手遊びを行っている。会場であることも図書室の入室組数制限(5組まで)があるため、同じ内容を同日2回行うことで、参加者の分散を図り、安心して参加できるよう配慮している。小学生対象のイベントとして、夏休みに調べ学習相談室、12月の障害者週間に点字の体験会を実施した。 県立学校への図書貸出サービスに関するチラシ(利用カード作成の案内を含む)、サービス利用マニュアルを作成し、5月末に県立高等学校等へ配布をした。(再掲)			読み聞かせイベントの再開が冬季になり、積雪等のためコロナ前ほどの参加者数には至っていないが、毎週数組ずつ参加がある。小学生向けのイベントは、イベントを目的に来館し参加して下さった方もおられ、新規の利用にもつながった。 学校図書館司書との情報交換の機会が増え、学校現場での資料のニーズや活用方法、意見などを詳しく聞くことができるようになった。今後も、より多くの学校と気軽に意見が言える関係性を築き、現場の意見をサービス改善や選書に役立てていきたい。(再掲)		読み聞かせイベントなど、ボランティア団体などと共に土日の実施が集客にもつながる。 親子連れが利用しやすい立地であり、駐車場も無料ということもありゆっくりと本や絵本を楽しむことが出来る環境なので、親子のイベントを読み聞かせだけに限らず図書館に向いてみたく内容が必要と思う。図鑑を見ながらの押し花づくりや絵本カードなど。 読書の習慣、本への興味を持たせるため、こども図書室の活動の充実は大切なことだと思う。	

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県立図書館職員 の能力の育成	職員の研修機会の充実	・研修に参加しやすい環境の整備 ・研修成果の共有と自己研鑽	職員全体研修会の開催【2回】	6月の開館日に、参加人数を分けて複数回行うやり方で、全体研修を実施した。 10月は蔵書点検による休館期間中に、全員参加での研修を実施した。 <実績> ・6月 電子書籍サービスについて ・10月 認知症の基礎知識と基本的対応について	2回	達成率100% 評価(5) 100%以上	年間計画を立て予定どおり2回実施できた。全員が同時に受講する機会を確保することが難しかったため、分散型(複数回)の研修方法も実施した。今後も研修内容や方法を工夫し、図書館サービスのレベルアップにつなげていきたい。	A	「職員の研修機会の充実」については、これまで通り職員の能力向上に努めてほしい。
			館内研修における職員の発表回数【10回】	オンライン研修等を活用してより多くの職員が研修を受講した。研修成果を共有するため、各職員が受講した研修について報告し、質疑応答を行う伝達研修を実施した。 <実績> ①Japan Open Science Summit 2022 ②県内公共図書館総合部門研究会 ③関東地区公共図書館研究発表大会 ④関東地区公共図書館研究発表大会 ⑤子ども読書レベルアップ研修 ⑥全国図書館大会 ⑦関東甲信越静区別研修 ⑧「がん情報ギフト」5周年記念フォーラム ⑨国立国会図書館障害者サービス担当職員向け講座 ⑩図書館等公衆送信サービス	10回	達成率100% 評価(5) 100%以上	図書館業務に関する知識やスキルを高め、サービス向上につなげるため、全体研修の機会に10名の職員が研修成果を発表した。 また、指標の実績には加算していないが、図書館の新サービスに関する研修を若手職員が講師となり行った。今後も、受講者による伝達研修や図書館サービス研修の機会を設け、職員の能力向上を図っていきたい。	A	各職員が参加した研修内容を館内職員に報告する伝達研修の実施は、職員のスキルアップにつながり、大いに評価できるものである。 年間の研修受講予定は分かると思うので、計画的に目標達成に向けた取組を行うことが求められると考える。研修した内容を、報告する必要はあると考える。 「職員の研修機会の充実」については、これまで通り職員の能力向上に努めてほしい。(再掲)
			職員の研修・会議等参加平均回数(全体研修を除く)【平均2回】	オンライン研修等を活用することによって、職員の受講機会を確保することができた。 <実績> ①5月24日 メディア研修会(Zoom操作)2名 ②5月31日 キャッシュレス決済導入研修3名 ③6月10日 JAPAN OPEN SCIENCE SUMMIT(JOSS)2022 2名(オンライン) ④7月1日 新潟県公共図書館児童部門研究会1名 ⑤7月7日 サビエ研修会1名(オンライン) ⑥7月22日～ 関東地区公共図書館協議会研究発表大会3名(オンデマンド) ⑦8月2日 障害者サービス担当職員養成講座(基本編)1名(オンライン) ⑧8月18日、9月9日 レファレンス共同DB担当者研修会1名(オンライン) ⑨8月30日～9月1日 新任図書館長研修会1名(オンライン) ⑩8月30日 これからの公共図書館～学校連携、図書館のスマート化にむけて1名(オンライン) ⑪9月9日 子ども読書レベルアップ研修会1名(オンライン) ⑫9月27日 新潟県公共図書館中堅職員研修1名(オンライン) ⑬9月30日 図書館に向けた図書館等公衆送信サービス説明会1名(オンライン) ⑭10月4日 新潟県公共図書館総合部門研究会2名(オンライン) ⑮10月6～7日 全国図書館大会群馬大会(オンライン)2名 ⑯10月11日～ リモートラーニングによるデジタル人材育成のための基礎研修1名 ⑰10月27日～全国公共図書館研究会(サービス部門 総合・経営部門)3名 ⑱11月1日 図書館総合展・著作権フォーラム1名 ⑲11月17日 がん情報ギフト5周年記念フォーラム1名 ⑳11月17日 デジタルリテラシー修得(デジタル人材育成のための基礎研修)1名 ㉑11月25日 視覚障害者サービス研修基礎編(オンライン)2名 ㉒11月28～29日 国立国会図書館国際子ども図書館児童文学連続講座1名 ㉓11月29～12月2日 関東甲信越・静地区図書館地区別研修(茨城県立図書館)1名 ㉔11月30日 訟務研修会(訟務事務の基本・判例の読み方のコツ)1名 ㉕12月6～7日 障害者サービス担当職員向け講座1名 ㉖12月8日 国立国会図書館関西館開館20周年記念講演・シンポジウム1名 ㉗1月26日 令和4年度SDGs推進セミナー2名 ㉘3月8日 新潟県公共図書館専門職員研修会(オンライン)2名	平均2.2回	達成率111% 評価(5) 100%以上	オンライン研修等の活用によって、年度当初の目標を達成した。 研修・会議等のオンライン開催が増えたことで、全国規模や県外研修・会議等の参加機会が格段に得やすくなった。 次年度も、可能な限り参加機会を確保して、職員の育成と能力向上を図っていきたい。	A	平均2.2回と目標を上回っており、評価できる内容である。引き続き職員のスキルアップのために各種の研修に積極的に参加していただきたい。 職員の更なるスキルアップのための職員研修については、オンライン開催が非常に効果的であり、更なる職員の参加機会の増をお願いしたい。 年間の研修受講予定は分かると思うので、計画的に目標達成に向けた取組を行うことが求められると考える。研修した内容を、報告する必要はあると考える。(再掲) 「職員の研修機会の充実」については、これまで通り職員の能力向上に努めてほしい。(再掲)

## 令和4年度新潟県立図書館運営基本指針 行動計画 に係る意見

### 1 地域社会への貢献 全体（今後の取組を含む。）への意見

- ・ A 評価のものについては、引き続き内容の充実を図ってほしい。
- ・ 県立図書館には多くの素晴らしい資料が所蔵されていると聞いている、これらをギャラリー展示し美術館や博物館的な役割を果たし、関連した図書の利用につなげていただきたい。
- ・ 書籍や資料の大切さを文書館と共同で、広く県民に伝えていただけないか。

昭和の世代に活躍した郷土史家、研究者の先生方が相次いで亡くなられている。そういう方々の蔵書がご家族の手で廃棄されているのが残念である。難しい問題とは思いますが、廃棄されるものの中に郷土新潟にとって大切な資料もあると考えられる。ご一考いただけるとありがたい。

- ・ 「越後佐渡 DL デジタル化画像数」、「郷土人物/雑誌記事索引 DB 収録数」の項目が100%を大きく超えているのに比べ、「アクセス件数」の項目がB、C評価になっているということは、需要が想定よりも少ないということである。今後の需要増が見込めるかどうか気になる。
- ・ 貸出冊数の目標もよいのだが、何に基づき目標冊数が設定されているのか不明である。数値目標の根拠を示していただきたい気がする。
- ・ 定性的目標があってもよい気がする。
- ・ レファレンスの質は評価しにくいだろうが、顧客満足度で図ってもよい気がする。
- ・ 単なる図書の検索が仕事では、司書の方もつまらない気がする。

### 2 県内図書館への貢献 全体（今後の取組を含む。）への意見

- ・ 令和4年度の評価（案）については特に意見はないが、令和6年度以降は回数にこだわらない目標としてもよいのではないか。
- ・ 全体的に順調であると思う。
- ・ 協力貸出冊数については、需要の予測が立ちにくいいため、数値的目標を設定するのが難しいように思う。
- ・ 予算の削減等で、どこも図書館の人員が削減され、専門の司書数が減っていくと思われる。そのようなスタッフの減員による差で地域のサービスに差がつかないように応援や指導など、今後も計画を立ててほしい。
- ・ 訪問等回数（研修以外）の目標を設定しているので、最初からその目標を達成できるような計画的な訪問を企画した方がよい。計画したが実施できなかったのなら良いと考える。
- ・ 県内図書館への助言や研修は目的意識と明確な目標に基づき回数目標と定性的な評価を併用すべきかと思う。
- ・ 県内図書館の何に貢献したのか評価不能である。
- ・ 県内図書館の他者評価を導入してみるのも一つの手段ではないか。

### 3 県民の生涯にわたる学びへの貢献 全体（今後の取組を含む。）への意見

- ・コロナ禍による影響がある中、様々な取組をされているのがわかった。評価の低いものについても、やむを得ない部分があるのかと思うので、引き続き目標達成に向けて努めていただきたい。
- ・D 評価ということだが、サピエ資料の需要が県内にどの位あるのか、単純に前の年よりも数値を上げることが目標として適切なのかが気になる。
- ・図書を貸出する以外でも県民のニーズを発掘し、利用につなげる方法もあると思う。例えば図書館司書の知見を利用した資料の探し方講座などがあってもいい気がする。図書の貸し出しやレファレンス以外でも図書館に対する隠れた需要はあると思う。個々の館員の創意を発揮した事業を行うことを要望する。
- ・県立図書館だから県内の情報を発信するというのもよいのだが、グローバルな情報化の時代に適した最先端の情報発信を期待するのは無理なことだろうか。

### 新潟県立図書館運営全体に対する意見

- ・県立図書館の役割として、行政との連携、貴重な資料の収集・保存はあると思うが、一般の人の図書館利用率を上げて行く事も大切だと思う。図書館を認識してもらう為に、写真なども多用したホームページの作成、学校・学生などへの働きかけ等、積極的な発信が必要だと思う。
- ・達成率が100%よりもはるかに高い項目については、Aではなく、AAやSという評価をしても良いように思う。
- ・電子図書の普及で、図書館離れにならないように魅力発信を引き続き実施していただきたいと思う。
- ・コロナ対策で、手指消毒は引き続き設置していただきたいと思う。
- ・協議会に参加していて、図書館の運営・経営が県の経費削減により難しい状況になっていることを感じている。図書館は県民へ図書の貸し出しや読書をサポートするサービス機関であると同時に、教育の場、情報の集積地、研究者の集まる場所であってほしいと願っている。
- ・文書館・生涯学習センターとタッグを組んで、三つの館の合同で頑張りたいと思う。

行動計画の評価であるが図書館側が主体的にできる項目はA評価を達成しており、全体として大いに評価できる内容である。

一方で、アクセス数や利用者数など相手がいる事項はC・Dの評価となっているが、コロナ禍などの影響もあり、利用者数など図書館側で主体的にできない事柄のため、致し方ないと考える。

全体としては、コロナ禍にも関わらず健闘したと評価できる。

引き続き、図書館や職員の専門性が発揮できるサービスを継続していただければと考える。

電子書籍導入についても、遠隔地の県民でも利用しやすいサービスを期待したい。

また、これは1つのアイデアに過ぎないが来館者にタブレットを館内貸出して電子書籍が館内でも読めるようにすることや、利用方法を動画でも紹介するなど、電子書籍に触れるきっかけ作りも検討していただければと思う。

# 令和5年度新潟県立図書館運営基本指針 行動計画評価シート(中間報告)

資料 4

## 1 地域社会への貢献

・定量評価 (5=100%以上 4=90~100% 3=80~90% 2=70~80% 1=70%未満)

・総合評価 (A=成果を上げている (4.5以上) 、 B=順調に進んでいる (3.5以上4.5未満) 、 C=概ね順調に進んでいる (2.5以上3.5未満) 、 D=順調に進んでいるとはいえない (1.5以上2.5未満) 、 E=事業の見直しが必要 (1.5未満) )

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組(実施状況)	中間振り返(4~7月実績)	達成率	最終評価(9月31日)	自己評価	総合評価	協議会意見
県の行政施策と連携した取組	県各部署とのコラボ展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>県各部署へのPR</li> <li>展示の実施</li> <li>「読書お便りコンクール」市町村巡回展示の実施</li> </ul>	ギャラリー展示回数【6回】	年度前半は県立高等学校や一般県民の利用が中心となった。行政連携展示は主に後半での実施を予定しており、引き続き各部署へのPRに取り組んでいく。 <実績・予定> 7月 自衛隊新潟地方協力本部「人を守る」というやりがい 8月 新潟県獣医師会「ワンヘルス」について 12月 県資源循環推進課資源環境企画係「海洋プラスチックごみ」削減に向けたパネル展	(取組についての評価) ・評価(1)  (実績)計1回	17%		年度後半は行政連携展示のPRに取り組むとともに、図書館所蔵貴重資料等の展示も開催し、ギャラリー展示の充実に繋げていく。 引き続き「読書お便りコンクール」市町村巡回展示にも取り組んでいく。		
	特設コーナーにおける県行政施策の広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策広報コーナーの整備</li> <li>パブリックコメント・コーナーの充実</li> <li>県各部署への周知</li> <li>展示の実施</li> </ul>	コーナー展示回数【24回】	図書館のコーナー展示に際して展示の様子を撮影した画像や利用状況を連携部署と共有し、双方のSNSやホームページで広報することにより効果的な情報発信に努め、展示図書館の利用促進を目指し事業に取り組んでいる。 <実績> 4月 政策企画課、新潟県発達障がい者支援センターRISE、県立万代島美術館 5月 県立歴史博物館 6月 総務部行政改革課、県立万代島美術館、新潟県観光協会 7月 県立近代美術館、生涯学習推進課	(取組についての評価) ・評価(1)  (実績)計9回	38%		県施策に関する図書館のPR展示について県職員専用ポータルサイトで呼びかけを行っており、今年度もコンスタントに申込がきている。連携先の希望に合わせて展示を実施するよう調整している。 下半期も図書館展示を実施し、県民の課題解決への支援に繋げていく。		
	県各部署への情報提供の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>県庁貸出の手续改善</li> <li>県各部署への周知</li> </ul>	県庁貸出冊数【120冊】	県職員専用ポータルサイトを活用してサービスの周知を実施した。県行政を支える取組として、県各所属や職員への情報提供によるサポート体制の充実を目指し、更なる手続きの簡素化など運用改善を図っていく。	(取組についての評価) ・評価(4)  (実績) ・4月~7月 計117冊	98%		県庁貸出サービスについて県職員専用ポータルサイトで呼びかけを行っており、貸出冊数は順調に推移している。 下半期も引き続き周知を図りながら、目標達成に向けて取り組んでいく。		

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	中間振り返（4～7月実績）	達成率	最終評価（8月31日）	自己評価	総合評価	協議会意見
文化資産としての郷土資料の収集・保存・活用	新潟県関係資料の積極的収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>出版情報の多角的な把握</li> <li>積極的収集と展示</li> <li>書庫等の保存環境の整備</li> <li>デジタル化も見すえた行政資料の収集・展示の改善</li> </ul>		出版情報の収集から資料を入手して受入するまでの一連の業務の効率化を図るため、作業を細分化し複数の職員で取り組んでいる。閲覧室内では、平出修、鉄道、吉屋信子等、新潟県にゆかりのある人物や物事をテーマにした展示を月ごとに実施し、郷土資料のPRに努めている。				各種の利用促進策に取り組んだ結果、新聞等で取り上げられた資料等の迅速な提供につながり、郷土資料の貸出冊数は昨年同期比で上昇した。下半期も更なる利用促進に向けて取り組んでいく。		
	越後佐渡デジタルライブラリーの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル資料の追加</li> <li>利用環境の整備</li> <li>利用者へのPR</li> </ul>	デジタル化画像数 【1,000点】	今年度の参加機関は3機関。下半期に順次撮影を行い、令和6年3月までに追加・公開する予定である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>（取組についての評価）</li> <li>・評価（1）</li> </ul> （実績） ・4月～7月 0点	0%		現在、参加機関と撮影日程を調整しており、概ね予定通り進んでいる。		
			アクセス件数 【12,000件】	ホームページの更新に際して、デジタルライブラリーの検索画面へのリンクボタンを図書館トップページに設けた。デジタルライブラリーのトップ画面において、デジタル化資料を様々な切り口で紹介し、PRに努めている。また、11月には併設の文書館主催の講座と連携して、閲覧室内にデジタル化資料の原資料を展示する予定である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>（取組についての評価）</li> <li>・評価（2）</li> </ul> （実績） ・4月～7月 計8,395件	70%	検索画面へのリンクボタンを設けたことでアクセス件数は飛躍的に伸びたものの、ユーザーの7割がデジタルライブラリーのトップ画面を経由せずに直接検索画面にアクセスする状況となった。デジタルライブラリーのトップ画面にも訪問してもらえるような方策を検討する。			
	郷土人物/雑誌記事索引データベースの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの登録</li> <li>利用者へのPR</li> </ul>	データベース収録数 【2,500件】	郷土人物索引、郷土雑誌記事索引のいずれも採録資料を選定し、データ入力作業を開始した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>（取組についての評価）</li> <li>・評価（1）</li> </ul> （実績） ・4月～7月 計0件	0%	郷土人物索引は、順調に入力作業を進めている。郷土雑誌記事索引も入力作業を行っており、どちらも終了次第公開予定である。			
			アクセス件数 【5,300件】	ホームページの更新に際して、郷土人物/雑誌記事索引データベースの検索画面へのリンクボタンを図書館トップページに設けた。下半期に、新規ユーザーの獲得を目指してデータベースのコンテンツをより親しみやすい内容に見直す予定である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>（取組についての評価）</li> <li>・評価（3）</li> </ul> （実績） ・4月～7月 計4,572件	86%	検索画面へのリンクボタンを設けたことでアクセス件数は飛躍的に伸びたものの、ユーザーの8割が直接検索画面にアクセスする状況となった。下半期に実施するコンテンツの見直しによってデータベースのトップ画面についても内容の充実を図り、さらなるアクセス件数の増加を目指す。			

## 2 県内図書館への貢献

・定量評価 (5=100%以上 4=90~100% 3=80~90% 2=70~80% 1=70%未満)

・総合評価 (A=成果を上げている (4.5以上) 、 B=順調に進んでいる (3.5以上4.5未満) 、 C=概ね順調に進んでいる (2.5以上3.5未満) 、 D=順調に進んでいるとはいえない (1.5以上2.5未満) 、 E=事業の見直しが必要 (1.5未満) )

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組 (実施状況)	中間振り返 (4~7月実績)	達成率	最終 (3月31日)	自己評価	総合評価	協議会意見
県内図書館等が実施するサービスへの支援	県内図書館等への協力貸出の充実	・県民へのPR ・市町村等のニーズ調査と貸出体制の見直し ・小規模図書館等へのセット図書の見直し及び貸出 ・展示用コレクションの貸出	協力貸出冊数 【17,000冊】	従来の制度での協力貸出に加え、市町村立図書館等へのテーマ別図書セット貸出サービスを行っている。 電子書籍サービスの体験会では、基本的な図書館サービスを説明する場面も多いことから、県民に対して相互貸借についても積極的にPRを行っていく。	(取組についての評価) ・評価 (1)  (実績) ・4月~7月 計4,465冊	26%		活用例の提示等によってテーマ別図書セット貸出サービスの利用増に繋ぎ、市町村図書館の支援を行っていききたい。 無料で県立図書館の資料が取り寄せできることのPRを積極的に行って利用増を図っていききたい。		
	県内図書館等への訪問の充実	・市町村図書館等への訪問相談 ・高等学校への訪問相談 ・相談・打合せなど、様々な機会を捉えて訪問の実施	訪問等回数 (研修以外) 【20回以上】	訪問により、以下の相談や情報交換等を行った。 <実績> ・5月 長岡市立中央図書館 (訪問相談) オンライン ・6月 新発田市立中央図書館 (訪問相談) ・7月 新潟市立・新潟大学・県立図書館相互協力担当者会議 刈羽村立図書館 (訪問相談)	(取組についての評価) ・評価 (1)  (実績) ・4月~7月 訪問3回 オンライン1回	20%		下半期もより多くの機会を捉えて市町村を訪問し、各館の状況に合わせた支援に繋げていききたい。		
	県立高等学校図書館への支援	・高等学校への訪問相談 ・協力貸出の推進 ・連携事業の実施	高等学校協力貸出冊数 【200冊】	現在、県立学校が当館ホームページ上で操作し直接資料を予約できるようにするため、システム変更及びサービス運用について検討を進めている。	(取組についての評価) ・評価 (5)  (実績) ・4月~7月 計247冊	124%		昨年行った県立学校向けの広報・物流システムの改善により利用は伸びている。 今後さらなるPRに努め貸出実績を伸ばしていきたい。		
県内図書館等職員の人材育成	各種研修会等の実施	・階層別研修等の実施 ・オンライン研修 ・訪問研修の実施 ・訪問研修メニューの改善 ・参考となる図書の紹介・貸出	研修会等参加人数 (訪問研修以外) 【200人】	新任職員研修会はより多くの参加が得られるよう集合・オンラインの併用で開催した。 児童部門研究会は、講師との調整により集合型で開催した。 <実績> ・新潟県公共図書館新任職員研修会 (初日会場23人・オンライン24人、2日目会場25人・オンライン15人) 計87人 ・視覚障害者サービス研修 (第1回 基礎編) (オンライン) 45人 ・新潟県公共図書館児童部門研究会 30人	(取組についての評価) ・評価 (3)  (実績) ・4月~7月 計162人	81%		県内中堅職員研修は集合型、総合部門研究会はオンラインで開催予定であり、内容の充実によってより多くの参加を得られるよう取り組む。		
			市町村訪問研修回数 【10回以上】	事前・事後アンケート等を踏まえて各研修を準備・実施し、参加各館から好評を得ている。 <実績> ・資料の修理や保存の基礎 (弥彦村公民館図書室) ・レファレンス研修・初級編 (長岡市立中央図書館)	(取組についての評価) ・評価 (1)  (実績) ・4月~7月 訪問2回	20%		受講者アンケートや市町村との意見交換等での要望を踏まえて、より充実した研修が実施できるよう取り組んでいく。		
			訪問研修メニュー数 【5】	県視覚障害者情報センターとの連携による障害者サービス研修は、より効果的・効率的な方法を目指してオンライン開催としたため、訪問メニュー数としては減少することとなったが、郷土資料をテーマとした新たな研修メニューの整備に向けて準備を進めている。 ・レファレンス研修 (初級編) ・レファレンス研修 (郷土編) ・資料の修理や保存の基礎	(取組についての評価) ・評価 (2)  (実績) 訪問研修メニュー数 3	60%		年度後半は、内容向上とともに郷土資料に関する研修を新しくメニューに加えることにより、市町村支援の充実につなげる。		

## 3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

・定量評価 (5=100%以上 4=90~100% 3=80~90% 2=70~80% 1=70%未満)

・総合評価（A＝成果を上げている（4.5以上）、B＝順調に進んでいる（3.5以上4.5未満）、C＝概ね順調に進んでいる（2.5以上3.5未満）、D＝順調に進んでいるとはいえない（1.5以上2.5未満）、E＝事業の見直しが必要（1.5未満））

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	中間振り返り（4～7月実績）	達成率	最終（3月31日）	自己評価	総合評価	協議会意見
県民の読書環境の整備	利用サービスの改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用しやすいレイアウト変更等</li> <li>・調査相談（レファレンス）機能の向上</li> <li>・SNSによる情報発信</li> </ul>	入館者数【40万人】 ※コロナ禍の影響を考慮	SNSでの情報発信の更新頻度を上げるとともに、電子書籍サービスの利用をきっかけに直接来館利用にも繋がるように体験会では図書館サービスについて全般的に説明を行っている。 4月から感染症拡大防止のため制限していた館内設備の利用を再開して広報し、目標の達成を目指している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>（取組についての評価）</li> <li>・評価（1）</li> </ul> （実績） ・4月～7月 計101,605人（1日平均1,026人）	25%		5類に移行したとはいえ感染症が発生し続けている状況ではあり、入館者数は好調とまではいかない状態が続いている。基本的なサービスに加えて電子書籍サービスやカフェの再開等もPRすることで、目標を達成したい。		
			貸出冊数【45万冊】 ※コロナ禍の影響を考慮	資料費の削減に対応しながら令和5年度も引き続き効果的・効率的な選書に取り組むとともに、閲覧室展示では時事的なテーマの展示や県各所属との連携展示を積極的に行い、資料の利用促進を図る。併せて書架内展示や資料の見せ方の工夫など、魅力ある棚づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>（取組についての評価）</li> <li>・評価（1）</li> </ul> （実績） ・4月～7月 計138,549冊（1日平均1,399冊）	31%		資料収集方針に沿って、より効果的・効率的な選書に取り組むとともに展示等による資料のPRを行っているが、資料費削減の影響はカバーできていない。今後は展示のテーマや見せ方をより工夫して所蔵資料の有効活用を図り、目標を達成したい。		
			レファレンス協同データベース登録件数【40件】	利用者から寄せられた調査相談内容から、主に郷土に関するテーマなど、県民の調査研究活動を支援すると思われる事例や関心が高いと思われる事例を選定して登録をするため、事例を精査している。今年度は調べ方マニュアルも登録する予定である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>（取組についての評価）</li> <li>・評価（1）</li> </ul> （実績） ・4月～7月 0件	0%		スケジュール通りに作業を進めており、現在は事例を選定しデータを作成している。9月以降、順次登録していく予定である。		
			SNSへの記事掲載回数【120回】	ツイッターの特性を活かした投稿により、フォロワーの増加や県内図書館のフォローによる情報の周知・拡散に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>（取組についての評価）</li> <li>・評価（1）</li> </ul> （実績） ・4月～7月 41回	34%		イベント情報や電子書籍サービスのPRをツイッターを活用して発信するなど、若年層向けの情報発信に取り組んでいく。		
	読書に困難のある県民へのサービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新コーナー設置と資料の充実</li> <li>・利用者のニーズに合ったサービスの提供</li> <li>・サビエ等サービスのPR</li> </ul>	サビエ資料の貸出冊数【260点】	視覚障害者情報センターと連携し実施している「視覚障害者サービス研修」（市町村図書館職員向けの研修）にて、サビエ活用の呼びかけを行っている。 電子書籍サービス開始に併せて行っている体験会において、サビエのPRも行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>（取組についての評価）</li> <li>・評価（1）</li> </ul> （実績） ・4月～7月 計94点	36%		電子書籍サービス体験会で利用者の状況を伺いながら説明を行った結果、サビエサービスの利用に繋がった事例が発生した。今後もPRも強化していく。		
子どもや若い世代の読書推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ対応を踏まえた子ども向けイベントの再開</li> <li>・高等学校への協力貸出（再掲）</li> </ul>		<p>こども図書室は4月から入室人数制限を解除した。換気等の感染症対策は実施している。 毎週金曜日に行っているミニイベントは4月から参加者数を制限せず実施している。 電子書籍サービス開始早々に県立学校1校から依頼があり、全校分のID・パスワードを作成して配布した。（再掲） 現在、県立学校が当館ホームページ上で操作し直接資料を予約できるようにするため、システム変更及びサービス運用について検討を進めている。（再掲）</p>				基本的な感染症対策を踏まえつつ、こども向けイベントの完全再開を目指して、こどもの読書活動普及に取り組んでいきたい。			

	項目名	取組概要	指標・目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	中間振り返り（4～7月実績）	達成率	最終（3月31日）	自己評価	総合評価	協議会意見
県立図書館職員 の能力の育成	職員の研修機会の充実	・ 研修に参加しやすい環境の整備 ・ 研修成果の共有と自己研鑽	職員全体研修会の開催【2回】	図書館における危機管理の観点から、消防署署員による心肺蘇生法やAEDの使用方法、応急処置等の研修を実施した。続けて、職員が講師となり、7月に開始する「電子書籍サービス」についての研修を実施した。 <実績> ・ 6月 第1部：救命入門講習 第2部：電子書籍サービス研修	(取組についての評価) ・ 評価（1）  (実績) ・ 4月～7月 計1回	50%		蔵書点検による休館期間中は全員参加が可能であるため、2部構成で全体研修を実施した。下半期は年末年始休館日（1月4日）に実施する予定である。		
			館内研修における職員の発表回数【10回】	上半期はオンライン研修等を活用することで、より多くの職員の受講に繋がった。	(取組についての評価) ・ 評価（1）  (実績) ・ 4月～7月 0回	0%		上半期は研修成果の発表に繋がる研修の受講に努めた。研修成果を共有しサービス向上に活かすために、下半期は発表機会を設けて伝達研修を実施する。		
			職員の研修・会議等参加平均回数（全体研修を除く）【平均2回】	オンラインでの研修環境の充実と、受講機会の確保を図り、実績につなげた。 <実績> ・ 「伝わる広報」研修1名 ・ 広報スキルパワーアップ研修1名 ・ 障害者サービス担当職員養成講座（初級）1名（オンライン） ・ 児童サービス実践研修（館内研修）5名 ・ 図書館司書専門講座（国社研）1名 ・ 関東地区公共図書館協議会研究発表大会3名（集合、オンライン） ・ 2023年度サビエ研修会（オンライン）1名 ・ 新潟県公共図書館児童部門研究集会1名 ・ 「図書館等公衆送信サービス」説明会（オンライン）3名 ・ 生成AIの業務利用に関する説明会1名	(取組についての評価) ・ 評価（1）  (実績) ・ 4月～7月 平均1回 (計18回参加)	47%		オンラインの活用により、全国規模の研修・会議等の参加機会は得やすくなった。下半期も、可能な限り研修参加機会を確保して、職員の能力向上に繋げていきたい。 ・ 全国図書館大会 ・ 図書館地区別研修 ・ 全公園サービス総合・経営部門研究集会 ・ 図書館総合展フォーラム ほか		

【考え方】

○県立図書館に求められる基本的な機能・役割が大きく変わるものではないことから、引き続き指針で設定した、「地域社会への貢献」「県内図書館への貢献」「県民の生涯にわたる学びへの貢献」の3つの柱で事業に取り組む。

○上記指針のもと、デジタル化の急速な進展や、新型コロナウイルス感染症の影響による社会生活の変化に対応した取組を進める。

○行動計画や指標については、新しい項目(電子書籍など)を追加するとともに、継続する項目はサービスの維持・向上を目指し、取組の成果が明確になるような指標を検討する。

1 地域社会への貢献

項目	評価		振り返り		今後の取組の方向	備考	
	R3	R4	成果	課題			
1 [行政連携] ギャラリー展示回数	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>県施策の情報発信に一定の役割を果たせた。</li> <li>庁内に向けて、県立図書館の認知度を高めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用する部局に偏りがあること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続きPRに努め、利用促進を図る。</li> </ul>		
2 [行政連携] コーナー展示回数	A	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>利用実績のない部局が一定数あること。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>手続きの簡素化やサービス範囲の拡大を検討する。</li> <li>電子書籍も含めPRを継続する。</li> </ul>
3 県庁貸出冊数	A	A					
4 新潟県関係資料の積極的収集			<ul style="list-style-type: none"> <li>多彩な郷土コレクションを形成することにより、新潟県に関する調査研究活動に資することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民に郷土コレクションを周知し、一層の活用を図ること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レファレンス協同データベースなどの外部サイトを活用し、収集資料が郷土研究に際して有効であることをPRする。</li> </ul>	今後は活用に重点をおいて取り組む	
5 越後佐渡DLデジタル化画像数	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化資料点数が着実に増え、デジタルアーカイブとしてのスケールメリットが図られている。</li> <li>撮影作業のフォーマット化が図られ、専門技術を持つ人材を育成する効果があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史古文書や文化財のデジタル化に慎重な自治体が多く、新規開拓が難しい。事業の参加館が固定化しており、収録数の増加が難しいことから、別の方策を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史資料・記録のみでなく様々な地域資料をデジタル化またはポーンデジタル資料を収集することで、利便性を図るとともに貴重な資料をより良い状態で保存し永く後世に伝える。</li> </ul>	アウトカム指標である 6「越後佐渡DLアクセス件数」に統合	
6 越後佐渡DLアクセス件数	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクセス件数アップを目指してトップページギャラリーを定期的に更新したことで、地域資料の認知度向上につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民に「越後佐渡デジタルライブラリー」を周知し、一層の活用を図ること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レファレンス協同データベースなどの外部サイトと連携して、関連ページへの誘導リンクを作成するなど、複数のページを閲覧してもらう工夫を盛り込む。</li> </ul>	今後は活用に重点をおいて取り組む	
7 郷土人物/雑誌記事索引DB収録数	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>収録数を増やし、データベースの内容を充実させることにより、郷土に関する情報を求める利用者の有用なレファレンスツールとすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データベースの更新が年1回のため、新規受入雑誌等の採録・データ公開までにタイムラグがあり、やや速報性に欠ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四半期ごとの更新を目指すことで速報性に優れたデータベースとする。</li> </ul>	アウトカム指標である 8「郷土人物/雑誌記事索引DBアクセス件数」に統合	
8 郷土人物/雑誌記事索引DBアクセス件数	D	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>収録数が増えたことでレファレンスツールとしての有用性が確立し、アクセス数が着実に伸びた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民に「郷土人物/雑誌記事索引データベース」を周知し、一層の活用を図ること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページにナビゲーションやバナーを作成することで、ユーザーが目的のページにたどり着きやすくなるデザインにするなど、経費や担当職員の負担が少なく、かつページ訪問者が更に増える施策を行い、効率的にPRを展開する。</li> </ul>		

2 県内図書館への貢献

項目	評価		振り返り		今後の取組の方向	備考
	R3	R4	成果	課題		

1	県内図書館等への協力貸出冊数	A	B	・利用促進のための新たなサービス「テーマ別セット図書」を開始することで、市町村図書館の利用の幅が広がった。	・市町村図書館でもコロナ禍による臨時休館や制限により利用者が減少したことで、当初の想定より利用が伸びなかった。	・引き続き「テーマ別セット図書」貸出サービスのPRに努め、利用促進を図る。	
2	訪問等回数(研修以外)	D	A	・互いに顔の見える関係をつくることにより、当館の協力業務への理解が促進され、協力貸出や研修参加等につながった。	・訪問を希望しない館が一定数あること。	・オンラインでの実施など、より効果的・効率的な方法を検討する。	
3	高等学校図書館への協力貸出冊数	A	A	・利便性の向上を図る(市町村立図書館での受け取りサービス)ことで、目標を大幅に上回る貸出につながった。 ・案内チラシ、マニュアルの配布、訪問相談の実施によって学校図書館司書との情報交換の機会が増え、潜在的なニーズの掘り起こしにつながった。	・利用する学校が限定的であった。	・高等学校図書館が、ホームページのMyライブラリ機能を利用できるようにするなど、利便性を向上させ、新サービスの広報を行う。	
4	市町村職員向け研修会等参加人数(訪問研修以外)	B	A	・研修後アンケートでは「研修内容に満足している」や「今後の業務に役立つと思う」という回答が9割を超えることから、県内図書館等職員のスキルアップに寄与した。	・研修のテーマや内容等により、開催方法や参加人数が左右されるケースがあること。	・研修テーマ等を踏まえて、集合型もしくはオンライン等の開催方法についても適切に判断し、満足度の高い研修を実施する。	
5	市町村訪問研修回数	A	A	・研修後アンケートでは「研修内容に満足している」や「今後の業務に役立つと思う」という回答が9割を超えることから、県内図書館等職員のスキルアップに寄与した。	・訪問を希望しない館が一定数あること。	・オンラインでの実施なども含め、より効果的・効率的な方法を検討する。	
6	訪問研修メニュー数	A	C	・市町村のニーズを踏まえ、障害者サービス研修をメニューに加えた。令和5年9月以降に郷土資料に関するメニューを追加する予定である。		・内容のブラッシュアップを図り、充実した訪問研修を継続して実施する。	終了

3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

項目		評価		振り返り		今後の取組の方向	備考
		R3	R4	成果	課題		
1	入館者数	B	D	・感染症対策を施し、可能なサービスを行った。また、対面型のイベントが実施できなかったため、代替イベントを実施するなど、入館者数増加に努めた。	・コロナ禍による臨時休館や制限により利用者が減少し、回復に至っていない。	・利用者ニーズに合ったサービスを提供するとともに、利便性の向上に取り組み、より一層、県民に活用される施設を目指す。	
2	個人貸出冊数	A	B	・資料を探しやすい表示の工夫や書架展示等に取り組んだ。 ・システム更新にあわせ、館内OPAC機能を強化し、スマホ利用カードを導入するなど、利便性の向上を図った。	・資料費削減により、専門書・学術書の充実を図りながら、実用書・文芸書を厳選して収集することが困難なこと。	・利用者ニーズを考慮するとともに、将来にわたり維持・発展させる蔵書構成を念頭に置きながら資料を収集する。 ・選定方針に基づき、電子書籍と紙書籍の棲み分けを図りながら、資料を収集する。	
3	レファレンス協同DB登録件数	A	A	・登録件数を増やすことで、新潟県に関する調査研究活動に資することができた。	・登録内容がレファレンス事例のみで、「調べ方マニュアル」への登録ができなかった。	・レファレンス事例だけでなく、「調べ方マニュアル」についても登録を行い、利便性を向上させる。	
4	SNSへの記事掲載回数	A	A	・フォロワー数も徐々に増えており、図書館をより身近に感じてもらえるツールとして活用できている。	・X(旧ツイッター)だけでなく、各種SNSの活用を検討することで、情報発信機能を強化すること。	・投稿する内容を充実させるとともに、各種SNSの特徴を生かし、魅力的な情報を発信することで、当館取組の県民への浸透を図る。	
5	サピエ資料の貸出冊数	A	D	・利用登録手続き方法の簡略化を行い、利便性の向上を図った。	・関連団体に向けたPR方法を検討する。	・電子書籍サービスの活用とあわせ、効果的な広報を行う。 ・団体貸出サービス(「読書の場づくり支援サービス」)を必要とする団体への周知に努める。	
6	こどもや若い世代の読書推進			・交付金を活用し、こどもや若い世代向けの図書を幅広く揃えたとともに、こども図書室のリニューアルを行った。その結果、児童書の貸出冊数は前年までを上回る事ができた。	・コロナ禍で中止していた読み聞かせイベントを再開したが、コロナ前の参加者数までには回復できていない。	・読み聞かせイベントや夏休み親子向けイベントを継続して行う。 ・高校向け電子書籍体験会を実施することで、読書体験の入口を増やし、読書習慣の定着を図る。 ・団体貸出サービス(「子供の読書普及活動支援サービス」)を必要とする団体への周知に努める。	

3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

項目	評価		振り返り		今後の取組の方向	備考
	R3	R4	成果	課題		
7 職員全体研修会の開催(館内)	A	A	・図書館業務に関する内容だけでなく、カウンターでの接遇や危機管理など、直面している課題に関する研修を実施することで知識を広げることができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つの研修は有意義なものであったが、それらが必ずしも体系化されていないこと。</li> <li>・長期的なスパンで研修計画を作成し、職員のスキルアップを図ること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の内容を充実させ、系統立てた研修計画を作成し職員の資質向上を図るとともに、県内公共図書館職員向け研修での講師となる人材を育成する。</li> </ul>	
8 館内研修における職員の発表回数	E	A	・研修で学んだ内容をアウトプットすることで知識の定着が図られた。 ・発表のスキルアップにつながった。			
9 職員の研修・会議等参加平均回数(全体研修除く)	A	A	・オンライン研修等を活用し、多くの研修・会議に参加でき、知識や技術を身につけることができた。			
新規 10 電子書籍に関連した指標						閲覧件数や登録者数など

## 電子書籍サービスの開始について

社会のデジタル化に対応し、「いつでも、どこでも」読むことができる電子書籍サービスを新たに導入することで、県民の読書環境の充実を図ります。

＜7月11日（火）運用開始＞

### 1 電子書籍の特長

- (1) 図書館に来館しなくても、好きな場所と時間に、スマホやタブレットを使って読むことができます。
- (2) 読み上げ機能や文字拡大機能があり、自分に合った読書スタイルを選ぶことができます。

### 2 コンテンツ数と内容

- (1) コンテンツ数は、約3,000冊です。
- (2) コンテンツの内容は、仕事に役立つ実用書や専門書、趣味や教養書などを中心に幅広く揃えました。
- (3) 1人1台端末で利用しやすい環境にある高校生向けに、参考書や問題集、各分野の入門書など、生徒の学習を助ける本もあります。

### 3 利用方法

- (1) 県立図書館の利用登録が必要です。登録はオンラインでも申請できます。
- (2) 県立図書館のホームページからMyライブラリにログインし、「新潟県立図書館電子書籍サービス」のバナーをクリックすると、専用ページ（紀伊國屋書店電子書籍サービス「KinoDen」）が開きます。
- (3) 利用方法は閲覧型で、他の人が読んでいない本はすぐに読むことができ、読み終わったら画面を閉じるだけで、返却の必要もありません（何も操作をしない状態で15分が経過すると、自動的に閲覧終了になります）。

### 4 電子書籍体験会

県立図書館で体験会を実施したほか、佐渡市や粟島浦村を含め県内各地で体験会を開催することで、広く県民に電子書籍を周知し、利用を促進します。

